

中京大学 商学部

中京大学は名古屋市内にあり、文、法、商、体育の4つの学部をもち、学生数約1万人のいわゆる文科系の大学である。キャンパスは名古屋学舎と豊田学舎の2つで、体育学部のみが広い面積内に各種グラウンドや体育館等をようして豊田にある。他の学部のすべてを含んだ名古屋校舎は、徳川家先祖代々の寺、興正寺の広い境内の一隅にある。この周辺は八事山ハイキングコースの1つにもなっているほど、いろいろな木や林が多い閑静な所である。加えてこの界わいの通りには、ファッションな店が立ち並んでいる。

全国各地から集まってきた学生たちによれば、

「東京の喧噪を避けて名古屋へきたが、東京の友人たちと比べると生活費も安いし、タモリが言うほど田舎臭くもないし、楽しい学生生活を送っていますよ」

とのことである。

さてORのことであるが、こうした文科系の大学でORを研究している人は非常に少ない。幸い商学部に青木秀夫教授がおり、経営科学の講義でORを教えているというので訪ねてインタビューしてみた。

Q 講義では何人くらいの学生に、どんなことを教えますか。

A 商学部の3年生150人くらいに、前期は生産計画、在庫管理等の例を引きながらLPにおける実行可能基底解の意味、条件変化に対する基底解の変化、基底ベクトルの移動等のセンシティビティ・アナリシスの解説を行ない、後期は確率変数と経営科学というテーマで、待ち行列理論における主要な結果を解説し、さらに非定常状態の解析のためのシミュレーション技法とその周辺について説明をしています。

えっ、合格する人数ですか？ そうですね、毎年40人くらい（3割弱）ですね。

Q セミのほうは、どうでしょうか

A セミ生は約25人くらいで、前期はORのための数学

・統計学入門、そして後期はテーマ別のグループわけによる研究報告を中心として進めています。テーマとしてはLP、在庫、スケジューリング、待ち行列、取替と保全、ゲーム、情報理論等々です。

Q 具体的指導内容を1つ紹介してください。

A シミュレーションではまず乱数を理解させています。レマー乱数、M系列乱数について実験上では理解するのですが、乱数のソフトを作らせようとすると、M系列の数学的理解ができないのです。時間的な制限もあって、結局は私のほうで彼らへソフトを渡してしまうんです。

Q 最近の学生たちの特徴はどんなものですか。

A 6月頃に学生に聴いてみると、ほとんど家にマイコンをもっているか、あるいはさわった経験のある者なのです。ですから文科系の大学であったとしてもコンピュータ操作ができ、プログラミングもできる学生が意外と多いということです。

問題は、彼らもORに深い興味を示してくれるのだが、数学的基礎がないので、あるところから先へ進まなくなってしまうことです。

Q OR的な考え方を学生はどう理解していますか。

A 危険なことは、ORとは数学の応用だと彼らが思うてしまうことですね。そうならないように努めているのだが、どうもうまくいきません。その点で文科系大学のこの種の科目に対する良いテキストがほしいですね。日科技連のORライブラリーのように専門的でなく、しかも数式を使わない云々のようにレベルが低くなく、経済、経営あるいは商学部の学生向きのORを紹介した本が望まれますね。

恰好のいい紹介はできなかったが、文科系大学でORを教える大変さをかいまいた思いである。

(中田友一)